

＃呼ばれてないけど勝手に日本縦断ツアー

全国を回った軽トラの前に立つ鬼丸武士さん(中央)と竹尾恵介さん(左)、大坪洋三さん



「見てきたヨルダン」一冊に

中東ヨルダンで2年間、理学療法士として働いた元青年海外協力隊員の鬼丸武士さん(30)が、自身の経験を振り返った「僕が見てきた中東ヨルダン。」を出版した。現地

の車いすバスケットボールチームとの交流や、シリア難民との出会いなど「テレビやインターネットにはない生の中東について知ってほしい」と、本を手に全国を回っている。

鬼丸さんは大野城市出身。中学生のころから海外に憧れ、大川市の病院で理学療法士として働いていた2014年に青年海外協力隊員に志願。15年から2年間、ヨルダンで障害者の就労支援、バラスポーツチームの援助、シリア難民の訪問リハビリ

元海外協力隊員 鬼丸さん出版

日本縦断しPR「第二の故郷、現実知って」

などに携わった。

渡航前は「テロが多い」というイメージで、危険だと思っていた中東の地だが、現地では出会ったのは穏やかな人々だった。紛争でだけがをしたシリア人の家を訪ねた際には、どこでも客人として扱われ、紅茶でもてなされた。どんな状況でも誇りを失わない人間の尊厳を感じたという。

帰国後、「第二の故郷となったヨルダンを知ってほしい」と全国各地で講演。昨年7月、南米ペルーとの交流を続ける大川市の地域おこし協力隊員の大坪洋三さん(33)、竹尾恵介さん(32)と知り合い、今年7月に異文化交流や国際協力に取り組むNPO法人グラリオを立ち上げ

た。

今秋、本を出版すると、軽トラで「呼ばれてないけど勝手に日本縦断ツアー」を敢行。約2週間かけ、北海道から九州各地の12カ所ですピークイベントを開いた。軽トラの側面の日本地図は、励ましの寄せ書きで埋まった。

3人は11月中旬、ヨルダンを訪問。鬼丸さんはさらに3カ月ほど現地に滞在し、今後どのような交流ができるか、関係者と打ち合わせを続けている。「シリア難民支援のための医療従事者によるスタディツアーなど、自分ができることを実現させていきたい。本の続きは自分の生き方でつづりたい」と意気込む。

四六判210頁、1500円。鬼丸さん050(5239)0894、メールtakeuchi@grario.jp (床波昌雄)